少年

第４８８号(1) 令和8年１１月発行



山梨県警察本部
生活安全部 人身安全・少年課
甲府市丸の内１－６－１
055-221-0110 内線 3082
少年対策官　西川　卓

ルールについて考える

「スポーツの秋」という言葉があります。今年の夏は記録的な暑さが続き、その後は長雨や台風が続き、思うように運動ができなかった人も多かったのではないでしょうか。ようやく過ごしやすい季節となり、スポーツを楽しむ機会が増えてきました。

スポーツをする上で欠かせないものがあります。それが「ルール」です。ルールの必要性や意味について深く考えたことはあるでしょうか。ルールの大切さは、一度審判を経験するとよくわかります。審判は一瞬のプレーを正確に判断しなければなりません。審判を経験すると、より深くルールを理解しようとし、ルールへの関心が深まります。そして、選手としてプレーしているだけでは気づかなかったルールの意図や意味が見えてきます。その結果、自分のプレーの向上につながったり、チームに不利になる判定に対して感情的に審判に詰め寄ったりすることも減るでしょう。ルールや判定を否定することは簡単です。しかし、ルールを作り、公正に運用し、多くの人が納得できる形で守り続けることは決して簡単ではありません。

これはスポーツだけの話ではありません。私たちが生活している社会の決まりや法律、学校の校則も、人々の生活を公正に、そして滞りなく進めようとつくられています。また、スポーツのルールが時代と共に変化してきたように、法律や校則も社会の変化に合わせて見直されています。例えば、自転車乗車時のヘルメット着用の努力義務も、自転車事故で亡くなった人の約5割が頭部に致命傷を負っていたという事実を踏まえ、命を守ろうとする意図からつくられたものです。

今あるルールがすべて完璧とは限りません。だからこそ、私たちはルールを守りつつ、「すべての人にとって、よりよいルールはないだろうか」と考え続けることが大切です。ルールが作られた背景や目的を理解し、その上で改善しようとする姿勢が、よりよいスポーツやよりよい社会につながります。そして、何でも自由に好き勝手することよりも、条件がある中で自分のベストを発揮することの面白さを感じてほしいと思います。

スポーツは一人ではできない

大人になってもスポーツを続けていると、トレーニング以外の努力が必要になります。ボールなど道具の購入・管理、練習時のグラウンドや体育館などの場所の予約・使用料の支払い、チームのメンバーへの連絡、大会のエントリーなど、手間や時間、お金をかけてスポーツを続けていると思います。その努力を知る人であれば、学生時代に支えてくれた監督や顧問の先生、マネージャー、保護者のありがたさを改めて感じているのではないでしょうか。本当のスポーツマンは自分のプレーだけでなく、大会運営関係者、審判、対戦相手、保護者への感謝の気持ちも大切にし、試合の準備・片付けや仲間への声かけをしています。スポーツそのものを尊敬(リスペクト)し、支えてくれる人々を尊敬する姿勢が大切です。スポーツは勝敗以上の価値があります。スポーツを通して感謝する心や謙虚さを学び、人間として成長してほしいと思います。技術を磨くだけで無く、人間力も高め、周囲から応援される選手になってほしいものです。

第４４回 少年を非行から守る中学生防犯弁論大会

10月1日(木)、双葉ふれあい文化館において、「第44回少年を非行から守る中学生防犯弁論大会」が開催されました。県下警察署管内で行われた地区大会で選ばれた代表者12名に、開催地である甲斐警察署管内の中学校の代表者１名を加えた計13名が出場しました。それぞれの出場者が中学生の視点で防犯や少年非行について考え、内容をまとめ、練習を重ねてきたことが感じられる中身の濃い素晴らしい発表の連続でした。

「同調圧力に負けない心」

最優秀賞
北杜市立甲陵中　春日　さくら　さん

「ねえねえ、一緒に遊ぼう」小学校のとき、私には大切な友達がいた。彼女は太陽のように明るくていつも私を笑顔にしてくれた。私は彼女と一緒にいる時間が大好きだった。しかし、ある男子の一言で楽しかった日常がうばわれた。「なんかさ、最近あいつ、うざくない？　さくらもそう思うでしょ」同調以外許されない、圧力のかかった言葉。私はそれを聞いて「そ、そうだね」と答えてしまった。本当はうざいなんて思っていない。なのに、いじめっ子からの重圧が鎖のように私を縛り付け、同調することしかできなかった。そんな鎖は徐々にクラス全体に広がって、いじめが始まった。教室に入るだけで笑われ、「死ね、消えろ」そんな残酷な暴言も吐かれた。変なあだ名もつけて、先生にバレないようにいじめていたのだ。私はそんな彼女を見て、かばってあげなきゃ、助けなきゃと思った。でも私は見て見ぬふりをしてしまった。私が彼女をかばってあげたら、自分もいじめられると思ったからだ。彼女を助けたかったのに、周りに流されてしまった。それから私は彼女と話さなくなった。そんな日々が続いたある日、彼女が突然私にこう言った。「私たち友達じゃなかったの？」目に涙をためながら弱々しい声で話す彼女。その時私は、はっと気づいた。私も彼女をいじめていたんだと。

経験したことがないだろうか。周りからの同調圧力で自分の意見を押し殺したこと。いじめが起きているとわかっているのに、自分も同じ目に合いたくないから見て見ぬふりをする。そんな人がいるから、いじめは無くならないと私は思う。自分がいじめっ子に同調すれば、いじめられている友達を一人にして、いじめはエスカレートしていく。そんなことが許されるはずがない。同調圧力という名の鎖。それを破る鍵は想像力だ。もしずっと仲がよかった友達が突然自分のことを裏切り、いじめてきたら。きっと足元から世界が壊れるような深い絶望に襲われるはずだ。自分が同調圧力に負ければ、追い打ちをかけるように深く、友達を傷つけてしまう。想像力を働かせて友達の痛みに気づくことができれば同調圧力に負けない原動力になる。

鎖を破り、いじめられている友達のために行動しよう。些細なことでもいい。何気なく話しかけてみよう。こっそり先生に伝えてみよう。勇気をもって傷ついている友達に寄り添ってみよう。そうすれば傷つき苦しんでいる友達にとってあなたが心の拠り所となっていく。同調圧力で作られた集団の中で一人、声を上げることは容易なことではない。私もできなかった。でもそれができればきっといじめはなくなる。ノーベル平和賞を受賞した、キング牧師の言葉がある。「最大の悲劇は、悪人の残酷さではなく、善人の沈黙である」この言葉の通り、いじめから目を背けることは、最大の悲劇だ。だからいじめを見逃してはいけない。許してはいけない。いじめのない世界はきっと誰もが輝いている。友達を思いやる想像力と、自分の意志を貫く勇気。そんな力で悩み苦しむ友達の心に光を灯そう。同調圧力に負けない心。それがいじめをなくす第一歩だ。

大会成績発表

最優秀賞	春日　さくら	甲陵中学校(３年)	同調圧力に負けない心
優秀賞	町田　花音	松里中学校(３年)	誰もが安心して過ごせる地域づくり
優良賞	水原　あいな	城南中学校(３年)	本当に「見る」べきこと
入賞（発表順）	望月　莉衣菜	双葉中学校(３年)	言葉の力
	飯野　舞美	白根巨摩中学校(２年)	「エンパシー」を身につけよう
	佐藤　愛加	東桂中学校(３年)	思い込みの先にある危険
	前島　文香	一宮中学校(３年)	果実の盗難ゼロをめざして
	宮下　心翔	明見中学校(３年)	私たちの言葉で繋(つな)ぐ第一歩
	稲垣　芽依	上野原西中学校(３年)	AI時代の防犯と犯罪
	渡邉　優月	三珠中学校(３年)	目と目で繋がるコミュニケーション
	鈴木　一葉	敷島中学校(３年)	変わるならまず私から
	志茂　楓	甲府北東中学校(２年)	言葉の力
	渡邉　花菜	身延中学校(３年)	被害者にも加害者にもならないために